

## マニユライフ・米国銀行株式ファンド(愛称:アメリカン・バンク)

### ファンドのポイント

<p><b>1. 景気拡大による米国銀行の収益拡大期待</b></p>	<p>(1) 景気拡大による貸出増加 (2) 金利上昇による収益拡大</p>
<p><b>2. 米国銀行を取り巻く構造的な変化</b></p>	<p>(1) 活発なM&amp;Aによる事業拡大・効率化 (2) 税制改革・金融規制緩和</p>
<p><b>3. 長期の卓越したマニユライフの運用</b></p>	<p>(1) 良好なパフォーマンス (2) 経験豊富な運用チーム</p>

### 良好な決算発表が相次ぐ米国銀行

米国銀行の2017年第4四半期の決算が発表されています。個別銘柄により差はありますが、全体的に利ざやの改善や貸出残高の伸びが確認できました。業績も昨年と比較して拡大しており、今後の見通しも良好です。

米国経済のファンダメンタルズの強さやこれら良好な企業決算を材料に、米国銀行株式は引き続き堅調に推移するものと期待されます。

### 主な米国銀行の決算状況 : 当ファンド組入銘柄(2018年1月末時点)

#### SVBファイナンシャル・グループ

地方銀行



企業概要

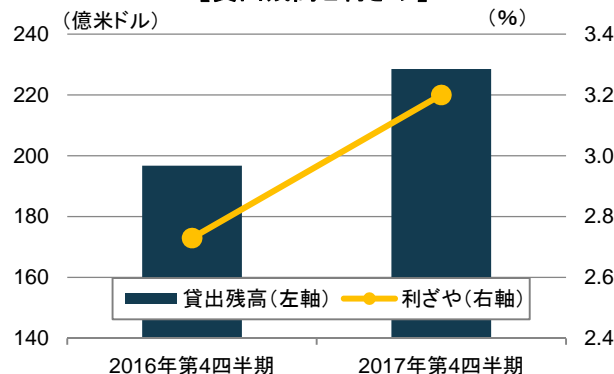
テクノロジーとライフサイエンスのニッチ市場の新興・中規模成長企業向けに、商業銀行サービスを提供。米国カリフォルニア州シリコンバレーおよび他の地域・州で事業展開。



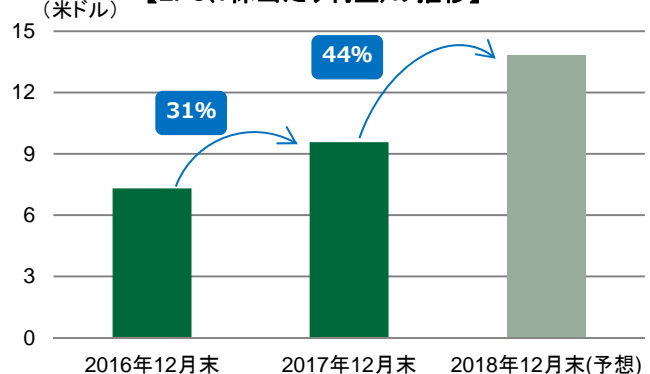
決算のポイント

米国の利上げによる利ざやの改善、企業向け融資などの貸出残高増加、預貸率の改善などを背景に純金利収入が拡大したことに加え、非金利収入も伸びたことが好業績に寄与。

【貸出残高と利ざや】



【EPS(1株当たり利益)の推移】



※上記は個別銘柄を推奨するものではありません。また、将来の当ファンドへの組入を示唆、保証するものではありません。

EPS(1株当たり利益)の2018年12月末は予想値(2018年2月現在のブルームバーグ集計値)

出所:ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・アセット・マネジメント株式会社が作成

パシフィック・プレミア・バンコープ **地方銀行**



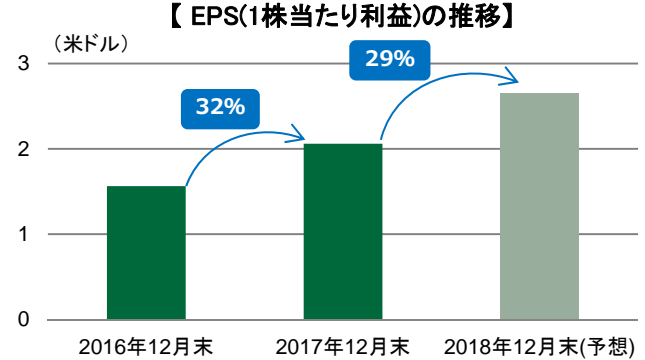
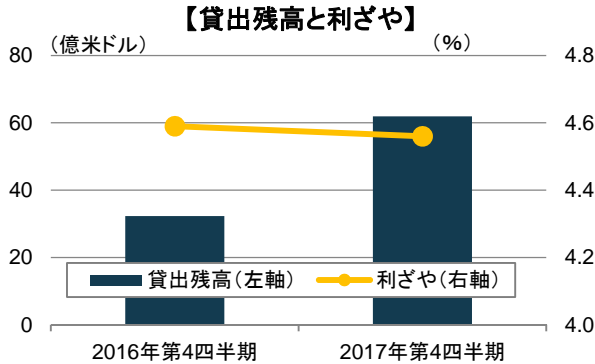
企業概要

法人・個人、農業関連、建設融資サービスを主な事業とする貯蓄銀行。カリフォルニア州南部で事業を展開。



決算のポイント

買入による貸出残高の増加のほか、法人向け融資や不動産ローンでの貸出増加などから純金利収入が拡大、また経費率の削減などが奏功し好業績に寄与。



カロライナ・ファイナンシャル **地方銀行**



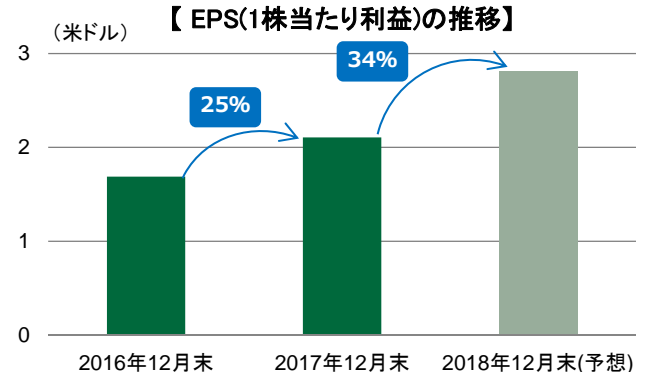
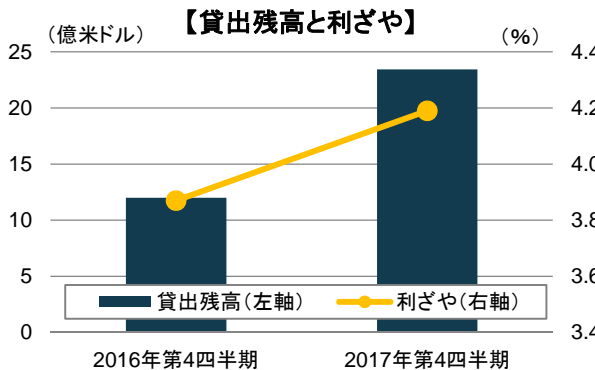
企業概要

商業ローン、消費者ローン、住宅ローン、当座預金、普通預金、オンライン銀行業務・請求書支払などのサービスを提供。サウスカロライナ州を本拠に事業を展開。



決算のポイント

買入による貸出残高増加のほか、コミュニティ・バンク業務での貸出増加や利ざやの改善などにより純金利収入が拡大、さらに経費率の削減などが好業績に寄与。



バンク・オブ・アメリカ **都市銀行**



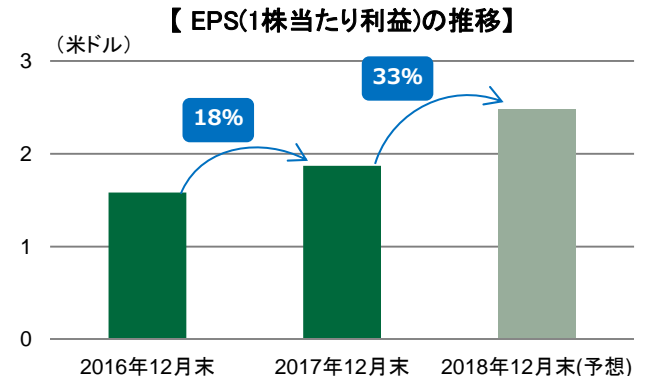
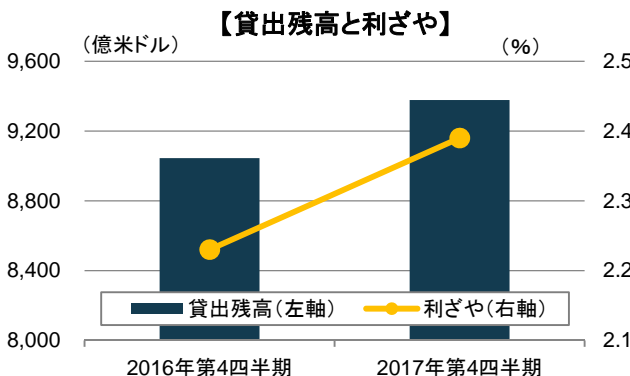
企業概要

預金業務、銀行業務、投資・資産運用、その他金融およびリスク管理商品とサービスを提供。モーゲージ貸付会社、投資銀行、証券ブローカーなどを子会社に持つ。



決算のポイント

米国の利上げによる利ざやの改善、貸出残高の増加などを受けて純金利収入が2012年以降で最大となったことなどが好業績に寄与。



※上記は個別銘柄を推奨するものではありません。また、将来の当ファンドへの組入を示唆、保証するものではありません。

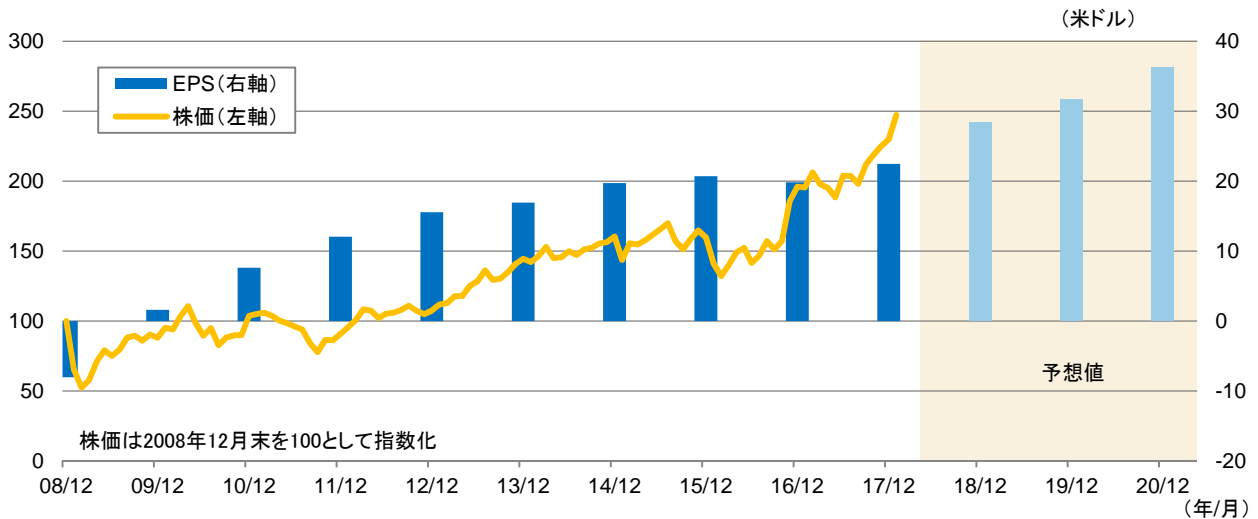
EPS(1株当たり利益)の2018年12月末は予想値(2018年2月現在のブルームバーグ集計値)

出所:ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・アセット・マネジメント株式会社が作成

## 今後の見通し～2018年も魅力的な投資機会が続く米国銀行株式

緩やかな景気拡大・金利上昇局面にあることに加え、税制改革や今後見込まれている金融規制緩和などの構造的な変化等を背景に、米国銀行株式は中長期的にも収益拡大が見込まれており、今後もさらなる株価上昇が期待されます。加えて、地方銀行では合併による収益拡大効果も期待され、2018年も魅力的な米国銀行株式の投資機会が続くと考えられます。当ファンドでは、引き続き、中長期的に持続的な成長が見込めると判断される米国の銀行・金融機関の株式を選別し、投資してまいります。

米国銀行株式：株価とEPS(1株当たり利益)の推移

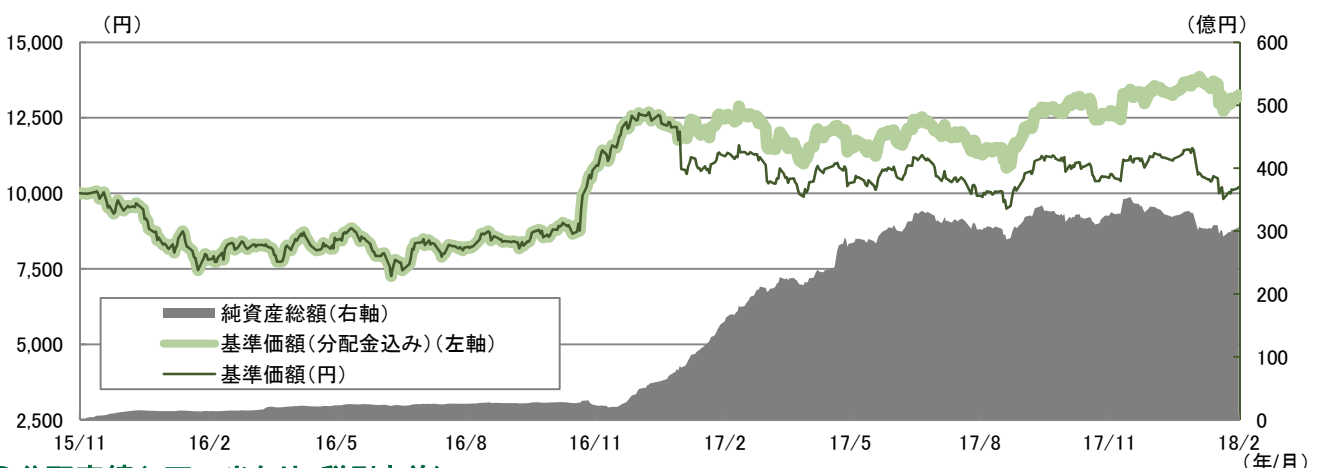


米国銀行株式：S&P総合1500銀行株指数

株価：2008年12月末～2018年1月末(月次)、EPS：2008年～2017年(年次)、2018年以降は予想値(2018年2月現在のブルームバーグ集計値)

出所：ブルームバーグのデータをもとにマニライフ・アセット・マネジメント株式会社が作成

## ●当ファンドの設定来の基準価額と純資産総額の推移 (2015年11月20日～2018年2月20日(日次))



## ●分配実績(1万口当たり、税引き前)

決算期	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	設定来合計
	2016年1月	2016年4月	2016年7月	2016年10月	2017年1月	2017年4月	2017年7月	2017年10月	2018年1月	2,900円
分配金	0円	0円	0円	0円	1,200円	0円	300円	500円	900円	

※基準価額、基準価額(分配金込み)は、信託報酬等(4ページをご覧ください)控除後の1万口当たりの値です。※基準価額(分配金込み)は、税引き前分配金を全額再投資したもとして計算しています。また、換金時の費用、税金等は考慮していません。※収益分配は一定の金額をお約束するものではなく、分配対象額が少額の場合には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。※分配実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。※上記は過去の実績であり、将来のファンドの運用成果を示唆・保証するものではありません。

※当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご覧ください。

**ファンドの特色**（詳細は投資信託説明書(交付目論見書)にてご確認下さい。）

- 1 主として米国の銀行・金融機関の株式に投資を行います。**
  - 個別企業の調査・分析を重視したボトムアップ・アプローチにより、銘柄選択を行います。
  - 銀行の資本構成、資産の質、経営陣の能力、収益率、流動性および金利感応度などを精査し、中長期的に持続的な成長が見込めると判断される米国の銀行・金融機関の株式に投資を行います。
- 2 マニユライフ・アセット・マネジメント(US)LLCが運用を担当します。**
  - 主に「マニユライフ・米国銀行株式マザーファンド」(以下「マザーファンド」ということがあります。))に投資を行うファミリーファンド方式で運用を行います。
  - マザーファンドの運用はマニユライフ・アセット・マネジメント(US)LLCが担当します。
- 3 3か月ごとに決算を行い、年4回分配を行うことをめざします。**
  - 毎年1、4、7、10月の各20日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。  
※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。  
※分配対象額が小額の場合等には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。
- 4 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。**
  - 外貨建ての株式等への投資にあたっては為替ヘッジを行わないため、為替変動による影響を受けます。

**※資金動向・市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。**

**ファンドの主なリスク**（詳細は投資信託説明書(交付目論見書)にてご確認下さい。）

**基準価額の変動要因**

当ファンドは、マザーファンドを通じて値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。  
**投資信託は預貯金と異なり、投資元本は保証されているものではありません。また、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。ファンドの運用による利益および損失は、すべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。**

<b>株価変動リスク</b>	株式の価格は、一般に発行企業の業績・財務状況、株式市場の需給、国際的な政治・経済情勢等の影響を受け変動します。組入株式の価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、発行企業の財務状況の悪化・倒産やその可能性が予想される場合には、損失が生じたり投資資金が回収できなくなる場合があります。
<b>為替変動リスク</b>	ファンドが実質的に投資している外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に変動した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

**その他の留意点**

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 一度に相当額の一部解約の申込みがあった場合や、市場環境の急激な変化等により市場が混乱し流動性が低下した場合は、保有有価証券等を市場実勢から期待される価格で売却できないことがあります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。また、分配金水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

## お申込メモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。(詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。)
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金単位	販売会社が定める単位とします。(詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。)
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の解約価額(解約価額=基準価額-信託財産留保額)とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
購入・換金 申込不可日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ニューヨークの銀行休業日</li> <li>●ニューヨーク証券取引所休業日</li> </ul> ※詳しい申込不可日については、販売会社または委託会社にお問い合わせ下さい。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口換金については、委託会社の判断により換金金額や換金受付時間に制限を設ける場合があります。
信託期間	2026年7月21日まで(2015年11月20日設定)
繰上償還	純資産総額が30億円を下回った場合等の事由によっては、繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年1、4、7、10月の各20日(休業日の場合は翌営業日)とします。
収益分配	毎決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。収益分配額は委託会社が基準価額の水準・市況動向等を勘案して決定します。(販売会社によっては分配金の再投資が可能です。詳細は販売会社までお問い合わせください。) ※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。 ※分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

※その他の事項については、投資信託説明書(交付目論見書)の「手続・手数料等」をご覧ください。

## 手数料・費用等

## ■投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、 <b>3.24%(税抜3.0%)</b> を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。(詳細は、販売会社にお問い合わせください。)
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に対して <b>0.2%</b> を乗じて得た額を換金時にご負担いただきます。

## ■投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	毎日のファンドの純資産総額に <b>年率1.836%(税抜1.70%)</b> を乗じて得た額とします。	
	<運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜)> 信託報酬=運用期間中の基準価額×信託報酬率	
	委託会社	年率 0.86% ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出等の対価
	販売会社	年率 0.80% 運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
	受託会社	年率 0.04% 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他の費用・ 手数料	ファンドの運用管理費用(信託報酬)は、日々の基準価額に反映され、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。 法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等は、毎日のファンドの純資産総額に対して、合理的な見積率( <b>上限年率0.2%(税込)</b> )を乗じた額をその費用の合計額とみなして、実際の費用に関わらずファンドからご負担いただきます。組入有効証券等の売買にかかる売買委託手数料、信託事務の諸費用等は、ファンドからご負担いただきます。これらの費用は、運用状況、保有期間等により変動するため、事前に料率、上限額等を記載することができません。	

※ファンドの費用の合計額については、運用状況および保有期間等により異なるため、事前に合計額または上限額あるいは計算方法を記載できません。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

## 委託会社ならびにファンドの関係法人

委託会社	マニライフ・アセット・マネジメント株式会社 (設定・運用等) 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第433号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社 (信託財産の保管および管理等)
販売会社	次ページの販売会社一覧をご覧ください。(受益権の募集の取扱い等) ※目論見書は販売会社でお受け取りいただけます。
運用権限の 委託先会社	マニライフ・アセット・マネジメント(US)LLC (投資運用業等)

「ご留意いただきたい事項」を必ずご覧ください。

## 販売会社一覧

販売会社名	登録番号等	加入協会
エイチ・エス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号	日本証券業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
極東証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第65号	日本証券業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第20号	日本証券業協会
東洋証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号	日本証券業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第20号	日本証券業協会
株式会社北洋銀行	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第3号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
藍澤證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第6号	日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
エース証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第6号	日本証券業協会
株式会社三重銀行 (インターネットバンキング専用)	登録金融機関 東海財務局長(登金)第11号	日本証券業協会
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1977号	日本証券業協会
株式会社第三銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第16号	日本証券業協会
内藤証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第24号	日本証券業協会
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
岡三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号	日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
ほくほくTT証券株式会社	金融商品取引業者 北陸財務局長(金商)第24号	日本証券業協会
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第15号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第152号	日本証券業協会
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号	日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社京都銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第10号	日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長(金商)第75号	日本証券業協会
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号	日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

## ご留意いただきたい事項

- ・当資料は、マニライフ・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」といいます)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
  - ・当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。
  - ・投資信託は、預金等や保険契約と異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また元本や利回りの保証はありません。
  - ・販売会社が銀行等の登録金融機関の場合、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
  - ・投資信託の購入のお申込にあたっては、取扱い販売会社より最新の投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断下さい。
  - ・当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、参考として記載されたものであり、その銘柄または企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
  - ・各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
  - ・当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に帰属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。
- ※コメントは、資料作成時点における市場環境もしくはファンドの運用方針等について、運用担当者(ファンドマネジャー他)の見方あるいは考え方を記載したもので当該運用方針は変更される場合があり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、将来の運用成果等を約束するものではありません。

「ご留意いただきたい事項」を必ずご覧下さい。